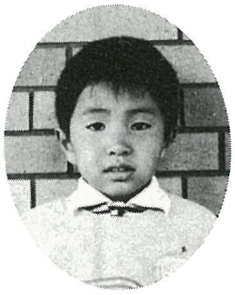
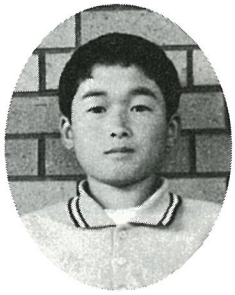
夢中でシャベルを入れる。
「ザクッ、ザクッ」
いもが顔をのぞかせた。
さらにはげしくシャベルは動く。
傷をつけないように、ていねいに
「まだほりきらないな」
「きっと大きないもだぞ」
期待で胸がいっぱいになる。
両方の手は、もう真っ黒だ。
しっぽが見えた。
いもをしっかりとつかみ
両手に力をこめて引く
あともう少し
「よいーっしょ」
やっとほれた。
きっと一番大きいぞ。



2　年
**あおやぎ まさゆき**

## ふでばこ

いよいよ　ずこうのじかんだ。
みんなは、大いそがしで、
えんぴつを出す。
パカパカ　パカパカ
いっぱい　音がする。
これは　何だ。
ふでばこを　あける音だ。
あけてみると、
えんぴつ、
けしゴム、
赤えんぴつ、
いっぱい　入っている。
つかうものをとると
パカパカ　パカパカ
また　音がする。
ふでばこを　しめる音だ。
ふでばこは　いっぱいしごとをする。



5　年
**大木　真也**

## そろばんのけんてい

よういはじめ。
先生の合図だ。
みんないっせいにはじめる。
とてもさわがしかった部屋。
先生の合図で静かになる。
みんなのしんけんな顔。
パチパチパチそろばんの音だけがきこえる。
指がいつもよりうごかない。
むねがドキドキする。
むちゅうで球をうごかす。
おわり。
先生の合図だ。
ほっとした顔。
ちょっと残念そうな顔。
にっこりわらった顔
いろいろだ。
合格しているといいけどなあ。

## 俳句

縫いあきし目を遊ばせて石蕗の花　鈴木　つね

点滴の個室に黙す柿日和　伊藤　定男

菊人形着せ替え中のおしんかな　大木静波子

暮れ早き部屋に障子を貼り急ぐ　越川　雪枝

初時雨左千夫の歌碑は濡れて立つ　藤代　敏子

短日や児の眠る間の厨ごと　土屋　好

茶の花の一輪挿しや連子窓　岩田　慶雄

ふりかかる飛沫冷まじ舟下り　椎名　静子

茶の花の葉がくれひそと盛り居ぬ　伊藤　幸枝

## 里芋のぬめりをうまく除こう

山野に自生している山芋に対し、里で栽培する小さい芋ということから里芋、あるいは子芋とも呼ばれています。

里芋の皮をむいてそのまま水からゆでるとブクブク泡がふきこぼれて困ることがあります。これは里芋の中に含まれているぬめりの成分が加熱によって煮汁の中に出てくるからです。

昔から、一度ゆでこぼすか、ゆで水に酢を加えるとよいといわれるのは、粘ったゆで汁をこぼし、さっと水洗いをすると粘りがとれ、熱のつたわりや味のしみこみがよくなるからです。酢を加えるのは、ぬめりの成分がたんぱく質性のものなので、酢によってかたまるのと、煮くずれしにくく、色が白くあがるためといわれます（この時もゆでこぼすこと）。また、水から入れるより、熱くなってから入れるとぬめりの出かたが少なくなるのは、芋の表面のでんぷんが早くのり状になって、粘りの成分を出にくくするからです。

## 町内の通話は有線を使いましょう